

# 慢性副鼻腔炎に対するブロンカスマ・ベルナの長期エアロゾル法について

大阪大学耳鼻咽喉科

原田 保, 荻野 仁, 松永 亨

## はじめに

慢性副鼻腔炎の成因に関して不明な点も多いが原因の一つとして細菌の関与は重要である。多価死菌製剤であるブロンカスマ・ベルナは皮下投与により、アレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎の治療に使用され有効性および安全性が確立されている。そこで今回、我々は慢性副鼻腔炎患者にブロンカスマ・ベルナをエアロゾル法にて比較的長期に投与し有効性ならびに安全性

について検討したので報告する。

## 対象および方法

対象は大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科外来を昭和63年5月より平成2年3月まで通院し、初診時鼻レントゲンにて明らかに慢性副鼻腔炎と診断できた3症例であった。症例は男性2名、女性1名であり、43歳~72歳、平均52.7歳であった。

表1 診断基準

評価項目		自覚症状		評価項目		鼻鏡所見	
		重症度	判定基準 (左右差がある場合には重症度の高い側について記載する)			重症度	判定基準 (左右差がある場合には重症度の高い側について記載する)
鼻漏	卍	卍	始終はなをかむ	中鼻甲粘膜	卍	卍	中鼻道が完全に閉じている
	卍	卍	よくはなをかむ		卍	卍	中鼻道がかなり閉じている
	+	+	1日に2~3回はなをかむ		+	+	中鼻道がやや閉じている
	-	-	全くかまない		-	-	中鼻道が開いている
後鼻漏	卍	卍	常にある	色調	卍	卍	蒼白
	卍	卍	時にある		卍	卍	赤
	+	+	1日2~3回気がつく		+	+	薄赤
	-	-	全くない		-	-	正常
鼻閉	卍	卍	全く通らない	下鼻甲粘膜	卍	卍	中鼻甲介見えず
	卍	卍	よくつまる		卍	卍	卍と+の中間
	+	+	つまるが気にならない		+	+	中鼻甲介中央まで見える
	-	-	なし		-	-	なし
頭重(痛)	卍	卍	激しくて仕事ができない	色調	卍	卍	蒼白
	卍	卍	たびたびおこるが我慢できる		卍	卍	赤
	+	+	時々気になる程度の頭重(痛)がある		+	+	薄赤
	-	-	全くない		-	-	正常
嗅覚障害	卍	卍	臭いが全くわからない				
	卍	卍	臭いがやっとわかる				
	+	+	臭いが少しわかる				
	-	-	なし				

投与方法はブロンカスマ・ベルナ 1ml に生理食塩液 1ml を加え合計 2 ml の吸入液を作製し、オムロン社製コンプレッサー式ネビュライザー (NE-C11) を使用し、1週間に 2 回、1 回につき約 10 分間行った。投与期間は第 1 症例で 21 ヶ月間 (85 週間)、第 2 症例では 15 ヶ月間 (66 週間) および第 3 症例では 8 ヶ月間 (33 週間)、平均で 14.3 ヶ月間 (61.3 週間) であった。

### 検査項目

- ① 自覚症状 - 鼻症状日記をつける (表 1)
- ② 鼻鏡検査 - 鼻鏡所見 (表 1)
- ③ 血清中 IgA および IgG の動態
- ④ 血清中 C3, C4 および CH50 の動態
- ⑤ 鼻 X-P (P→A 法, Waters 法)
- ⑥ 肺 X-P (P→A 法, lateral 法 R→L) および聴診

以上 6 項目について検討した。① は毎日、② は来院時、その他は原則として吸入前、吸入 4、8 週間後および本年 2 月あるいは 3 月の来院時の合計 4 回行った。

### 結果

① 自覚症状および② 鼻鏡所見について図 1 ~ 図 3 に示す。症例 1 は図 1 に示すごとく、自覚症状は 8 ~ 10 週目で改善傾向にあるが、ときどき症状の増悪があった。鼻鏡所見では色調に変化は認められなかったが、その他は 10 ~ 12 週目で所見の改善をみた。症例 2 は図 2 に示すが、自覚症状は 10 週目に改善を認め、鼻鏡所見では 10 週以内にすべての所見が改善していた。症例 3 では自覚症状は 12 週目を中心に改善し、鼻鏡所見では 10 ~ 12 週目でやや症状の改善を認めたが、著明な改善ではなかった。③ 血清中 IgA および IgG の動態はすべての症例において一定の傾向を認めず、その変動も正常範囲内であった。④ 血清中 C3, C4 および CH50 の動態では特に一定の傾向はなく、すべて正常値範囲内にて変動していた。⑤ 鼻 X-P (P→A 法, waters 法) にて図 4 に示す症例 1 において、左上顎洞の陰影の改善を認めた。他の 2 症例においては明らかな改善はなかった。⑥ 肺 X-P (P→A 法, lateral R→L) において、吸入前と後の変化は認められなかった。また肺

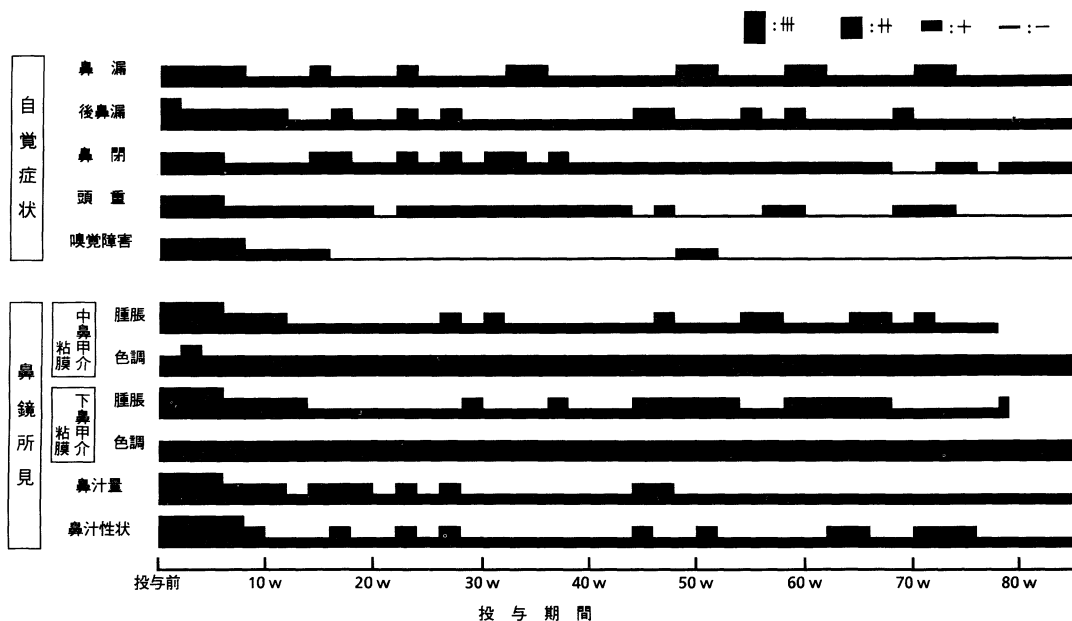


図 1 症例 1 の自覚症状・鼻鏡所見重症度推移

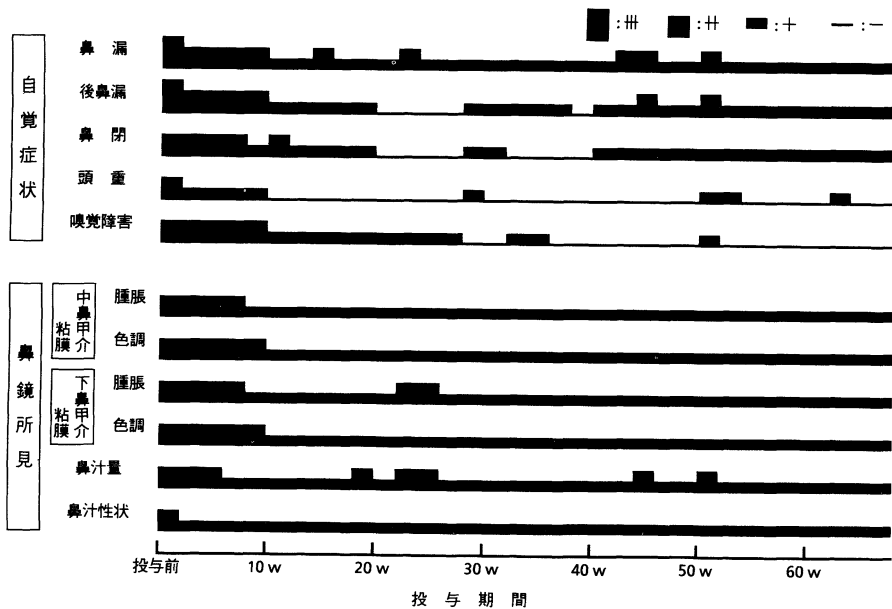


図2 症例2の自覚症状・鼻鏡所見重症度推移

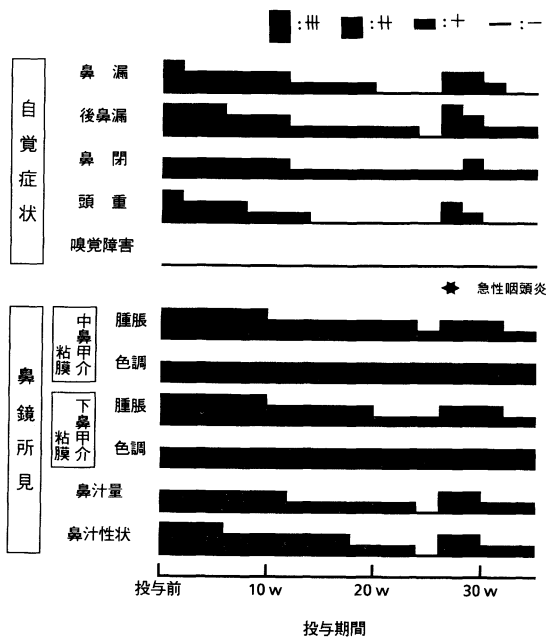


図3 症例3の自覚症状・鼻鏡所見重症度推移

野の聴診においても特記すべき変化は存在しなかった。

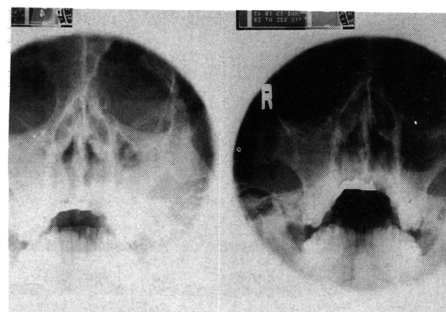


図4 症例1の鼻X-P (waters法)

#### まとめ

我々は慢性副鼻腔炎患者にブロンカスマ・ベルナを用いて平均14.3ヵ月間、エアロゾル法による治療を行った。

① 鼻症状日記より、自覚症状の改善は8～10週後より発現した。

② 鼻鏡所見において、粘膜の色調はほとんど変化はなかったが、8～12週間後より粘膜の腫脹の改善、鼻汁量の減少、鼻汁性状の改善（膿性から粘液～漿液性への変化）を認めた。

③ 血清中 IgA, IgG の変動は特に一定の傾向を認めず, その変動も正常範囲内にとどまった。

④ 血清中 C3, C4 および CH 50 の変動は特に一定の傾向を認めず, その変動も正常範囲内にとどまっていた。

⑤ 鼻 X-P において, 1 症例で上顎洞陰影の改善を認めた。

⑥ 肺 X-P および聴診所見では吸入前と吸入後において異常は認められなかった。

以上のことよりブロンカスマ・ベルナのエアロゾル治療は自・他覚症状の改善をみ, 副作用もないことより有用であると考えた。

---

## 討 論

---

質問 ; 林 (三重大)

鼻茸を有する症例に行った後, 鼻茸の変化につきお教えほしい。

応答 ; 原田 (大阪大)

検討していない。

鼻茸の大きさは不変であったが, その他詳しい検討はしていない。